

<金融史パネル>

第1報告：戦前期大阪の普通銀行による中小商工業金融

今城徹（阪南大学）

本報告の目的は、戦前の大都市の一つであった大阪の中小商工業金融の特徴を、大阪に本店を置いた普通銀行と商工業者の取引関係から明らかにすることである。

今城(2001)は戦前日本の大都市における中小商工業金融について全体像を与えており、東京、大阪、名古屋、横浜、神戸の商工業者は経営規模の小さいほど貸金業者や質屋といった非金融機関から資金調達を行い、経営規模が大きくなるにつれて各種金融機関から資金調達を行ったこと、そのなかで貯蓄銀行、無尽会社、信用組合といった中小商工業者向け金融機関が一部の中小商工業者にとって重要な資金調達先であったことを強調した。

また今城(2004)は戦間期大阪における貯蓄銀行、無尽会社および信用組合の活動を、同(2009)は、戦前期において大都市を中心に全国展開した大規模貯蓄銀行であり、同時に最大の中小商工業者向け金融機関であった不動貯金銀行の展開を考察している。これらの論考はいずれも中小商工業者向け金融機関が戦間期の大都市の中小商工業金融において一定の役割を果たしていたことを強調している。

しかし上記の先行研究は、中小商工業者向け金融機関の役割を強調するあまり、普通銀行が中小商工業金融に果たした役割を検討していない。今城(2001)はいわゆる問屋金融が各経営規模の商工業者にとって重要であったことも指摘している。中小商工業者向け金融機関のなかでも貯蓄銀行と無尽会社は当座取引や手形割引のサービスがない。当然ではあるが、普通銀行が商工業者間の信用を支えた主役だったのである。

そこで本報告では、第1節において戦前大阪で実施された中小商工業者に対する融資に関連した施策と、経営規模ないし収益別の商工業者と各種金融機関および非金融機関の取引関係を概観した上で、第2節において大阪所在の普通銀行と商工業者の取引関係を、1939年末時点の営業収益税50円以上の商工業者の取引銀行が判明する大阪商工会議所編『大阪商工名録昭和15年版』を用いて検討する。

戦時期に軍需関連以外の商工業者が転廃業を強いられたことを踏まえると、この史料だけで戦前大阪の普通銀行と商工業者の取引関係を考察することには無理がある。しかし、戦前および戦時期の大阪について比較的小規模の商工業者の取引銀行が判明する史料がこれのみであること、また1938年11月から大阪市が開始した商工業者に対する転業資金の融資実績が1939年5月末時点で不調であったことを考慮すると、この史料は戦前最後の大阪の普通銀行と商工業者の取引関係を反映しているともいえる。本報告は、重要であるがこれまで解明されてこなかった、戦前大都市における普通銀行による中小商工業金融の具体的な把握に貢献するものといえる。

(参考文献)

- ・ 今城徹(2001)「戦間期における五大都市中小商工業金融の特徴-中小商工業者と金融機関の取引関係を中心に-」『大阪大学経済学』第51巻第3号。
- ・ 今城徹(2004)「戦間期大阪における中小商工業者向け金融機関の展開」『社会経済史学』69(6)。
- ・ 今城徹(2009)「戦前期における不動貯金銀行の経営活動-中小商工業金融との関係を中心に-」『地方金融史研究』第40号。